

◆史跡の構成要素

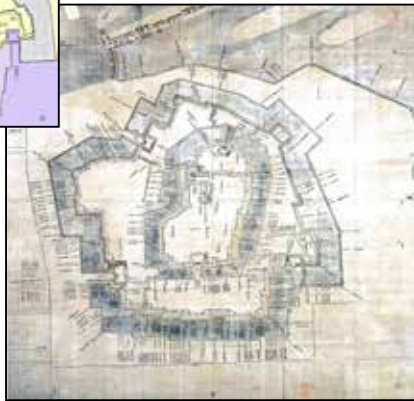
1 徳川期大坂城の石垣

幕府による石垣普請は、西国大名 64 家が参加する天下普請で行われた。10 年におよぶ工期の中での築造技術の変化や、大名ごとに異なる築造技術の存在など、徳川期大坂城は当時の築城技術のあらゆる要素を体現した城郭であり、石垣研究のうえで定点と位置づけられる存在である。



江戸時代の大坂城再築工事は、元和 6 年 (1620) から始まり、寛永 5 年 (1628) 年に完成した。

工事は 3 期に分けて行われ、第 1 期は北部地域、第 2 期が本丸地域、第 3 期が南部地域であった。石材は瀬戸内地域を中心に遠くは九州からも運ばれた。



大坂城普請丁場割図



大手土橋北側の石垣、建物は千貫櫓 (第 1 期)



桜土橋東側の石垣 (第 2 期)



二の丸南側の石垣 (第 3 期)



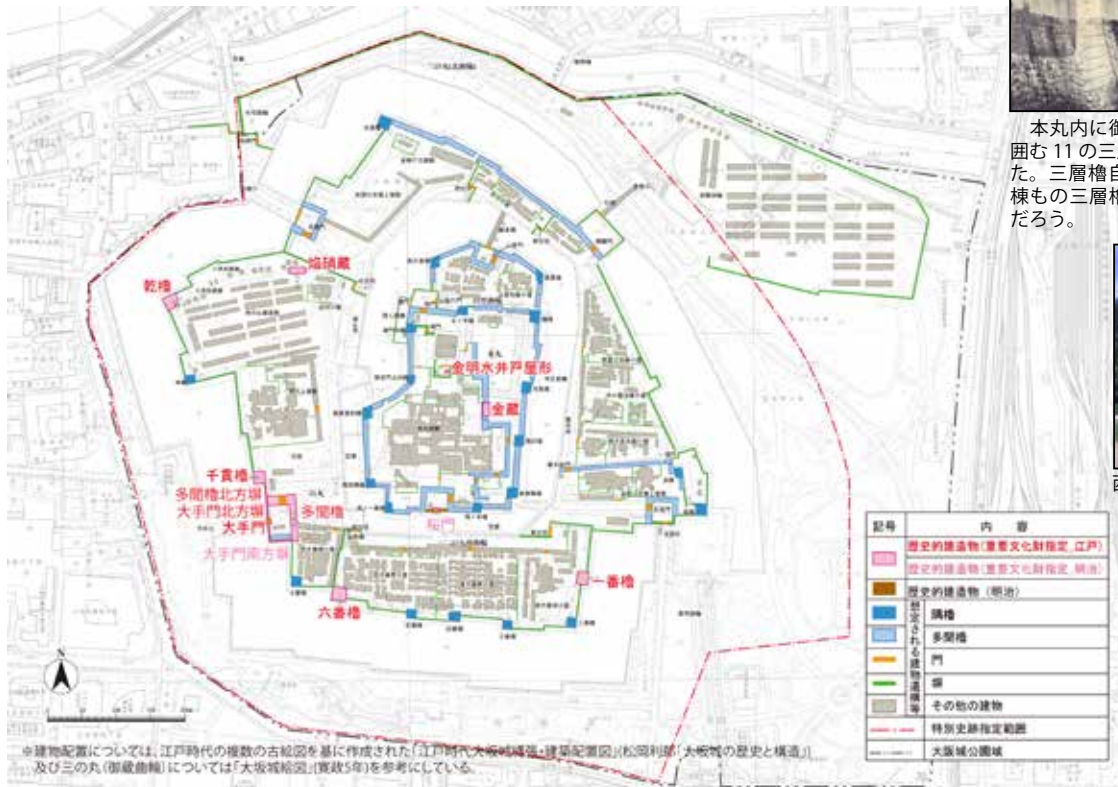
城内第一の巨石蛸石 (桜門枳形)



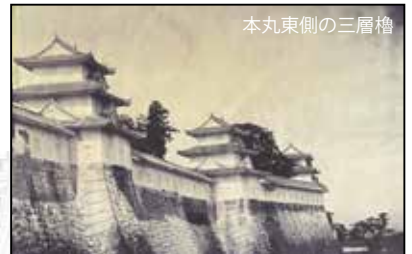
肥後石 (京橋門枳形)

2 徳川期の建物配置と現存する建物 (重要文化財)

江戸幕府により築造された徳川期大坂城の建物は、1665 年に落雷により焼失した天守を始め、幕末の混乱に伴う火災や第二次世界大戦の空襲によってほとんどが焼失した。現存する 13 の建物は、すべて重要文化財に指定されている。



中建物配置については、江戸時代の権数の古絵図を基に作成された「江戸時代大坂城城域・建物配置図」(松岡利誠「大坂城の歴史と構造」)及び三の丸(御蔵曲輪)については「大坂城絵図」(寛政 5 年)を参考にしている。



本丸東側の三層櫓

本丸内に御殿と天守がおかれ、それを取り囲む 11 の三層櫓とそれらをつなぐ多聞櫓があった。三層櫓自体を天守とする城も多い中、11 棟もの三層櫓が建ち並ぶ姿は、圧巻であったらう。



西国の年貢などが納められた金蔵



徳川期大坂城最古の建造物乾櫓

記号	内容
■	歴史的建造物(重要文化財指定 江戸)
■	歴史的建造物(重要文化財指定 明治)
■	歴史的建造物(明治)
■	指定される建造物
■	櫓
■	多聞櫓
■	門
■	堀
■	その他の建物
---	特別史跡指定範囲
---	大坂城公園域

3 徳川期大坂城の地下遺構

現存する石垣などは、徳川期の遺構であるが、築造当初から大きく改変を受けている様子や、厚い盛土によって地表面が変化している様子が発掘調査によって明らかになってきている。



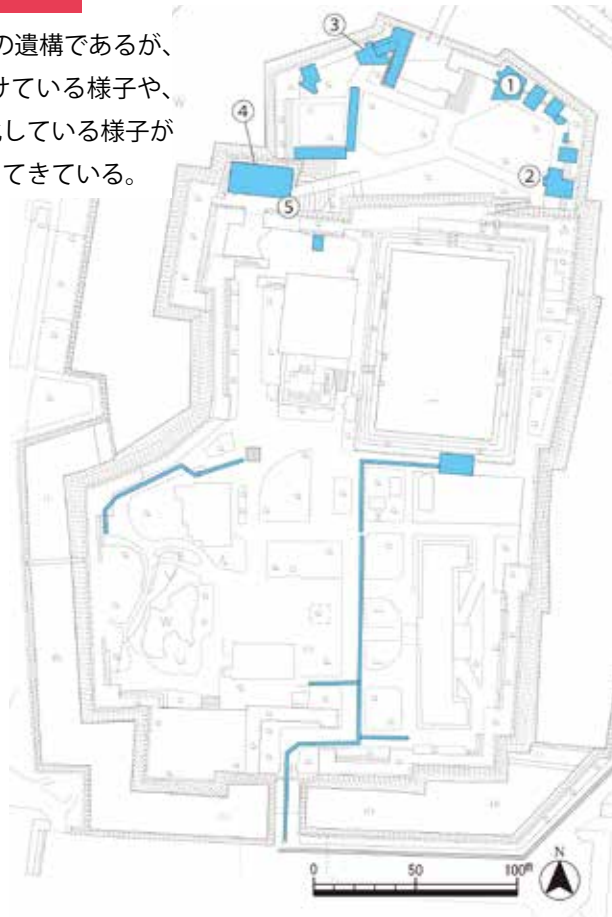
埋没していた雁木石垣



裏込め



埋没していた階段と雁木



本丸・山里丸地区の調査位置



調査地①
改変を受けた雁木



調査地②
山里丸現地説明風景



調査地②
集水枡



調査地②
集水枡と石組み溝

4 豊臣期大坂城の地下遺構

太閤秀吉により築城された豊臣期大坂城は大坂夏の陣(1615年)で落城するが、徳川幕府は豊臣期大坂城を覆い隠すように徳川期の大坂城を築いた。豊臣期の大坂城は地下に眠ることとなったが、現在、本丸内の2箇所豊臣期の石垣が発見されている。また、ボーリング調査では石垣の存在を示す地点が多数認められており、現在の本丸地下には秀吉の大坂城が良好に残っている可能性が高い。

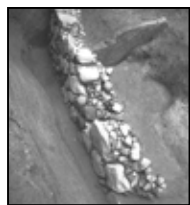


追手門小学校で発見された石垣



音楽堂で発見された堀と石垣

豊臣期には、京橋口・大手口・玉造口に堀や石垣で囲まれた馬出曲輪が想定されており、発掘調査でも大規模な堀や石垣が発見されている。



ピース大阪で発見された堀と石垣



昭和59年に地下1.1mで発見された詰の丸石垣。石垣下端の高さが昭和34年に発見された石垣の天端と同じことが発見された。



昭和34年に地下約7.5mで発見された豊臣期の石垣。秀吉の大坂城が地下に埋められていることが初めて発見された。



本丸・山里丸地区の調査位置

— 豊臣期の本丸
— 徳川期の本丸